

○先端工学基礎課程の教員養成に対する理念・構想

先端工学基礎課程は、夜間主コース本来の目的に立ち、勤労者・社会人教育に特化した課程で、基礎教育カリキュラムに加えて、専門分野として「情報・メディア・通信プログラム」あるいは「電子・機械・制御プログラム」を教育・研究する学科である。勤労者・社会人以外の、何らかの理由で昼の教育プログラムを受けることが出来ない学生も含まれる課程であることから、上記のいずれかの分野を専門とする教育内容を履修することにより、高等学校、中学校における数学を教える教員となることができる教員養成課程を用意した。

この課程を修了することで新たに教員となる学生に対して、各教育カリキュラムを習得することで高度に情報化された社会における基幹知識としての数学の重要性に気づき、数学が情報化社会においてどのように応用されているかについて中学校、高等学校の生徒に教育、啓発できるように構想されている。先端工学基礎課程で行われる理工系の専門教育を通して情報・メディア・通信あるいは電子・機械・制御の分野に対して真摯で確かな洞察力をもった人材を養成することが本学科の重要な理念となっており、同時に本課程での数学を対象とした中等教育における教員養成の重要な理念ともなっている。

専門教育に偏ることなく、人文社会系科目、産学連携教育科目を充実させ、「総合コミュニケーション科学」の概念に基づき様々な形態のコミュニケーションの念頭においた情報教育を昼の学科とともに先端工学基礎課程においても行うこととしている。これを教育の場において教師としてのあるべき行動や規範を生徒に示すために必要な資質を育成する上でも必須のものと捉え、本学における共通の教員養成課程の重要な方針として掲げている。

○教職課程の設置趣旨

先端工学基礎課程に教職課程を設置することの意味は、「勤労者社会人に対して総合コミュニケーション科学にかかわるものづくりに必要な専門教育を授け、教育の機会均等と成人教育の充実を図り、社会、文化の進展に貢献」する課程設置の趣旨により、教育カリキュラムを修了することで学習指導要領に定められた高等学校および中学校の教育の範囲内において、結果として専門的知識を取り入れて深く幅広い内容を盛り込むことが可能となることから教職に就くことによって社会貢献することの出来る学生に門戸を開くことが教職課程設置の趣旨である。

本学の従前の夜間主において教職課程修了者として全国の高等学校等の教員として就業している学生も多い。本課程に中等教育における教員養成課程を設置することは数学教育を通して中等教育に貢献し、将来の理工系人材教育の重要性を広く社会に伝えることも可能となり、大学教育の継続的な発展に寄与するものと考ええる。